

ニュースレター

# いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局  
西表森林環境保全ふれあいセンター  
平成22年2月発行 23号



アリモリソウ

## 「西表森林環境シンポジウム」を開催

1月16日(土)、沖縄県八重山郡竹富町の竹富町離島振興総合センターにおいて、当局主催による「西表森林環境シンポジウム」を開催しました。西表島はサトウキビ刈りのシーズンを迎え、また、インフルエンザの影響もあり予定の来場者が入るかどうかが不安でしたが、徐々に席も埋まりはじめ、関係者を含め約100名の参加がありました。

九州森林管理局長の主催者挨拶、竹富町長の来賓挨拶の後、活動報告、琉球大学熱帯生物圏研究センター馬場繁幸教授による「西表島のマングローブ林の現状と課題」についての基調講演、そして「西表島の森林と保全とふれあいの推進」についてのパネルディスカッションと進んでいきました。

活動報告では、最初に沖縄森林管理署及び西表森林環境保全ふれあいセンターが西表島の国有林においてこれまで取り組んできた保全と利用について、次に仲間川保全利用協定の事業締結者代表者が仲間川周辺の環境負荷を軽減するための取り組みについて、最後に地元小中学生からなる西表ヤマネコクラブが12年間に渡り取り組んできたイリオモテポタル、ビーチクリーンアップ、川の水質調査などについての活動を発表しました。

パネルディスカッションでは、馬場教授をコーディネーターに迎え、パネリスト7名が西表島の森林の保全とふれあいの推進について意見を述べ、会場からも、西表島の森林や休耕田のあり方、森林保全のためにはガイドの資質の向上も必要であるなどの意見がだされました。また、会場内には西表島の小中学校の児童生徒の活動並びに当局の森林保全等に関する活動を紹介するパネル24枚を展示しました。



局長の主催者挨拶



竹富町長の来賓挨拶



当所長による活動報告



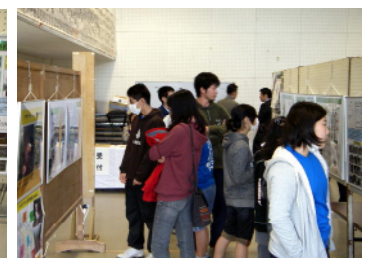
保全利用協定締結者代表による活動報告



西表ヤマネコクラブによる活動報告



パネル展示(1)



パネル展示(2)



馬場教授

**基調講演：琉球大学熱帯生物圏研究センター馬場教授**

「西表島のマングローブ林の現状と課題」について、キリバスやツバルなどの海外での地球温暖化による海面上昇の現状、インドネシアではマングローブ林の1種マヤプシキが巨木となること、西表島は大陸から離れてできた島であるのに対しガラパゴスは海洋島でありその成り立ちが違うため、むやみに東洋のガラパゴスの用語を使うべきでないこと、マングローブの1種ヒルギダマシは西表島の河川によってそれらが遺伝的に違うこと、また、島外から街路樹として樹木を導入すべきでないことなどについて講演し、最後に西表島の自然を守るためにはこのような機会を多くする必要があることを強調して降壇されました。

**(パネルディスカッションの出席者)**

- ・コーディネーター 馬場 繁幸 琉球大学 熱帯生物圏研究センター教授
- ・パネリスト 川満 栄長 竹富町長
- 刈部 博文 環境省西表自然保護官事務所自然保護官
- 藤崎 雅夫 仲間川保全利用協定締結事業者の代表
- 伊谷 玄 西表島エコツーリズム協会事務局長
- 山城まゆみ 大富地区区長
- 平沼 孝太 沖縄森林管理署長
- 杉野 恵宣 西表森林環境保全ふれあいセンター所長

**(パネルディスカッションの様子、コーディネーターとパネリストの皆さん(敬称略))**



パネルディスカッション



**(一般参加者からの質問)**



会場の様子



## 平成21年12月、平成22年1月期 ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査（毎月1回）を12月10日（木）、1月25日（月）に、西田川の利用状況調査（2ヶ月に1回）を12月11日（金）にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、12月期はカヌーツアーが8組（ガイド含め51名）、1月期はカヌーツアー5組（ガイド含め14名）でした。

一方、西田川の利用者はありませんでした。

12月期のヒナイ川の利用状況は51名ですが、修学旅行生が31名でした。修学旅行生はガイドの説明により、西表島の豊かな自然のすばらしさを肌身で知るとともに、深く記憶に留めたことと思います。また、1月のヒナイ川は、昼頃から強い雨となり、予定を変更し安全策を講じるツアーも見られました。



サンガラの滝  
（西田川：12月）



船着場  
（ヒナイ川：1月）

## 漂流・漂着ゴミの実態調査（12・1月分）

漂流・漂着ゴミの実態調査を12月7日（月）、1月7日（月）に実施しました。

1月期の実態調査では、船浦湾の内側地区には、調査地点にタイヤとプロパンガスのボンベが、また、付近のマングローブ林内には多数の発泡スチロール等の漂着物を確認しました。

ユチン地区では、大量の海草と共にペットボトルの漂着を確認しました。他の地区と比較してもこのユチン地区の漂着ゴミの量が最も多いのではないかと考えられました。



オヒルギに絡みついた網  
（ユチン地区：12月）



オヒルギの倒木  
（ユチン地区：12月）



上げられたガスボンベ  
（船浦湾内：1月）



漂着したペットボトル  
（ユチン地区：1月）

## 森の巨人たち百選オヒルギなどのモニタリングを実施

12月3日（木）仲間川のマングローブ林、12月15日（火）森の巨人たち百選のオヒルギおよび1月21・22日にかけて仲間川木道周辺のモニタリングを実施しました。それぞれの箇所で昨年に比べマングローブ林の倒木本数の減少、オヒルギ等の稚樹が数倍発生するなどしてまいりました。特に仲間川木道周辺の調査では、21日の調査でイリオモテヤマネコの古い糞を木道上で発見し、翌日の22日は新しい糞を見つけました。共通点として木道が曲がっている地点に痕跡を残してまいりました。このように、モニタリングの実施でいろいろなことがわかっていることから、今後、各種のモニタリングの取りまとめを行い、ホームページなどに掲載していく予定です。



仲間川マングローブ林調査



森の巨人オヒルギ



木道上で新しい糞  
を見つけた場所



## 仲間川道保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

1月28日(木)、仲間川地区保全利用協定の締結事業者が行う 砂泥の移動、 ヒルギ類の幼木の生長についてモニタリング調査の支援を行いました。

砂泥の移動結果は、前回と比較しわずかながら砂泥の流出が観測されました。

幼木の生長では、樹高に変化はないものの葉の数が増加しており、最も着葉数の多いヤエヤマヒルギの幼木では、設定当初の平成19年1月には47枚でしたが、今回の調査では114枚となり、2倍以上に増加しています。これまで台風等の被害も受けましたがこれらの幼木はたくましく生育しているようです。



砂泥の移動調査



ヒルギ類の幼木調査

## 西表島の樹木

今回は、西表島の低地などに生育している植物を紹介します。  
オオバギ(トウダイグサ科 オオバギ属)

学名: *Macaranga tanarius*

分布 / 琉球、台湾、マレーシアなど

生育環境・形態など

低地から山地の伐採跡地や林縁などに生育し、高さ4-10mの常緑の小高木です。枝は太く、若木の時には毛が生えます。葉は互生し、傘を広げたような特徴のある盾状の形をしており、10-25cmと大型で、葉先は尾状形をしています。葉柄の長さは6-15cmです。花は腋生し円錐花序、緑黄色で小型の花が咲きます。実は球形で黒く熟します。この季節、日当たりの良い場所では新しい花芽が少し出ています。



花：2009.03.26(白浜)



実：2009.06.09(ヒナイ川)



葉：傘を広げたような形



葉：長い柄は盾状につく

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>